

「万葉集を読む」1 大伴家持

群馬県立女子大学教授 北川 和秀

万葉集年表

西暦	五世紀前半	五世紀後半	天皇	仁徳	雄略	先皇	執政	事	項	期																		
年号	推古 古 三〇	舒明 三六 三五 三四 三三 三二 三一	皇極	孝徳	皇極	中大兄 皇子	蘇我 馬子	蘇我 蝦夷	推古天皇没 蘇我馬子没	聖徳太子没 卷二卷頭歌（磐姫皇后） 卷一卷頭歌（雄略天皇）	期																	
元	五	四 三 二	元	三 二	元	三 二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二	元	三 二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二	元	三 二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二																		
白雉	大化	皇極	皇極	孝徳	皇極	中大兄 皇子	蘇我 馬子	蘇我 蝦夷	推古天皇没 蘇我馬子没	聖徳太子没 卷二卷頭歌（磐姫皇后） 卷一卷頭歌（雄略天皇）	期																	
六五〇	六四九	六四八	六四七	六四六	六四五	六四四	六四三	六四二	六四一	六四〇	六三九	六三八	六三七	六三六	六三五	六三四	六三三	六三二	六三一	六三〇	六二九	六二八	六二七	六二六	六二五	六二四	六二三	六二二
白雉	大化	皇極	皇極	孝徳	皇極	中大兄 皇子	蘇我 馬子	蘇我 蝦夷	推古天皇没 蘇我馬子没	聖徳太子没 卷二卷頭歌（磐姫皇后） 卷一卷頭歌（雄略天皇）	期	第	一	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期

一重のみ妹が結ばむ帯をすら三重結ぶべくわが身はなりぬ 742

佐保川の水を堰き上げて植ゑし田を 尼作 刈れる初飯はひとりなるべし 家持続 1635

石麻呂にわれ物申す夏瘦せに良しといふ物ぞ鰻取り食せ 3853

瘦す瘦すも生けらばあらむをはたやはた鰻を捕ると川に流るな 3854

真幸くと言ひてしものを白雲に立ち棚引くと聞けば悲しも (天平十八年) 3958

かからむとかねて知りせば越の海の荒磯の波も見せましものを (天平十八年) 3959

* 悔しかもかく知らませばあをによし国内ことと見せましものを

…… 黄金かも たしけくあらむと 思ほして 下悩ますに 鶏が鳴く 東の国の (神龜五年、意良) 797

陸奥の 小田なる山に 黄金ありと 申し給へれ …… 嬉しけく いよよ思ひて

伴の 遠つ神祖の その名をば 大来目主と 負ひ持ちて 仕へし官 海行かば 水

浸く屍 山行かば 草生す屍 大君の 辺にこそ死なめ 顧みは せじと言立て

大夫の 清きその名を 古よ 今の現に 流さへる 祖の子等ぞ (天平感宝元年) 4094

大伴の遠つ神祖の奥津城はしるく標立て人の知るべく (天平感宝元年) 4096

天皇の御代栄えむと東なる陸奥山に黄金花咲く (天平感宝元年) 4097

紅は移ろふものぞ 橡の馴れにし衣になほ若かめやも (天平感宝元年) 4109

春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出で立つ少女 (天平勝宝二年) 4139

わが園の李の花か庭に降るはだれのいまだ残りたるかも (天平勝宝二年) 4140

物部の八十少女らが汲みまがふ寺井の上の堅香子の花 (天平勝宝二年) 4143

我がここだ偲はく知らに霍公鳥いづへの山を鳴きか越ゆらむ (天平勝宝二年) 4195

春の野に霞たなびきうつら悲しこの夕かげに鶯鳴くも (天平勝宝五年) 4290

わが屋戸のいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕かも (天平勝宝五年) 4291

うつらうつらに照れる春日に雲雀あがり情悲しも独りしおもへば (天平勝宝五年) 4292

剣大刀いよよ研ぐべし古ゆ清けく負ひて来にしその名ぞ (天平勝宝八年) 4467

うつせみは数なき身なり山川の清けき見つつ道を尋ねな (天平勝宝八年) 4468

21 移り行く時見る毎に心いたく昔の人し思ほゆるかも (天平勝宝九年) 4483

22 咲く花は移ろふ時ありあしひきの山菅の根し長くはありけり (天平勝宝九年) 4484

23 八千種の花は移ろふ常磐なる松のさ枝をわれは結ばな (天平宝字二年) 4501

24 新しき年の始の初春の今日降る雪のいや重け吉事 (天平宝字三年) 4516

25